

第59期（2008年10月期）日本語研修コース

鹿 島 央

1. 研修生

A. 大使館推薦（研究留学生，教員研修生）

文部科学省より配置された大使館推薦の国費留学生は、9ヶ国17名（メキシコ3名，ペルー2名，インドネシア，イスラエル，イラン，グアテマラ，バーレーン，ミャンマー各1名）で，うち6名は日韓理工系学部予備教育生である。残り11名のうち，7名が教員研修生で，残りの4名が研究留学生であった。進学先は名古屋大学10名，愛知教育大学4名，滋賀大学が3名であった。今回の研修生の11名の内，2名は中級以上の学習者であった。

B. 学内公募（国費留学生）

今期も法学研究科から国費特別コース5名を受け入れた。今期より，これまで受け入れていたJICE（日本国際協力センター）支援無償留学生（JDS）のうち初級前半レベルの留学生は，全学日本語プログラムを受講してもらうことにした。ただし，中級レベルの留学生については昨年度と同様に，午前中は全学日本語プログラムの集中日本語コースを受講し，午後の1コマについてはJICE（日本国際協力センター）の資金協力による読解を中心とした特別クラスを受講した。

以上のように，第59期日本語研修コースは国費大使館推薦留学生9名，学内推薦留学生5名の合計14名でスタートした。ただし，1名の研修生については，コース開始直後に帰国し，日本語研修コースは受講しなかった。

2. クラス編成

授業は，2クラス編成とし，専任教員2名，非常勤講師10名の計12名が担当した。

3. 時間割と日程

時間割は58期と同様である。

コースの日程は以下の通りである。

10月10日(金) 開講式，10月14日(火) 授業開始，冬季休業12月24日(水)～1月5日(月)，1月6日(火) 授業再開，3月2日(月) 修了式。春季休業中の集中日本語講座は，国際言語文化研究科の主催する日本語実習クラス（2月16日～2月26日）があり，10名が参加した。

見学旅行は，2月27日(金)に京都太秦映画村と広隆寺を見学した。

4. カリキュラム

未習クラスのカリキュラムは58期の内容とほぼ同じであったが，理解が難しい学生が以前より多かったため，1クラスについては，Vol.2からドリルの時間を増やし，読む練習を削除することで速度を落とすクラスとした。どちらのクラスで学習するかは，学生と相談しながらも主体的な判断に任せた。このような措置のため，「Talking time」の時間数削減と日本人ゲストは1回だけとした。

5. アンケート結果

修了アンケートの結果について報告する。結果は以下の2点である。

- ①プログラム満足度
- ②留学生自身による達成度とコース満足度

「このコースのプログラムの内容に満足していますか」という質問に対して，「0 (not satisfied)，1，2，3 (satisfied)」の4段階で回答するものである。

表1の上段は，「3 (satisfied)」と回答した人数，下段は「2」の回答までを含めた回答人数を比率で示したものである。参考のため，55期(2006年10月期)，57期(2007年10月期)についても示してある。

表1 59期の満足度 (%)

期	55	57	59
「3」の回答	65	79	62
「3」と「2」の回答	95	100	92

「2」の「ほぼ満足」まで含めると今期の学生の満足度もこれまでのように十分に高いことがわかる。

②留学生自身による達成度とコース満足度

学生自身は自分の成果についてどの程度満足しているかについて、やはり期ごとに記す。質問は、「学習成果に満足していますか」というもので、回答はコースの満足度と同じく、「3」から「0」までの4段階評価である。

表2 59期の学生自身の満足度 (%)

期	55	57	59
「3」の回答	46	23	23
「3」と「2」の回答	69	77	85

「2」までの評価である「ほぼ満足」では、自分自身でも成果について過去のデータに比べて満足しているといえるが、「3」のみの回答では、これまでのように成果について十分に納得していないことが分かる。表1との比較から、プログラムにはほぼ満足していても、自身の満足度は十分にとはいかないまでも、他の期よりもいくらかいいという結果となっている。

5. まとめと問題点

- (1) 今期は、これまで実施してきた授業進度が速すぎるといふ学生が多く、途中で授業内容を削除することで対応し、文法理解を促すプログラムに変えてみた。最終的には話す時間数の減につながった感もあるが、いつものことながら集中プログラムとしてのあり方を考えさせられた。その一方で、すばらしく習得が進み、研修コース後の研究に打ち込める体勢が整った学生もあり、研修コース本来の目的が達成された思いをもった。
- (2) 今回の反省事項のひとつは、遅刻あるいは欠席する学生を十分に説得できなかったことである。このことは、集中コースでは重要なことであり、定時に真面目に受講する学生の志気に多大な影響をあたえる。指導教員とも緊密な連携をとり、集中コースの意義を十分に理解していただくように努力していきたい。

付記：法学研究科留学生に対する特別日本語コースについて

今期法学研究科から受け入れた8名については午前中全学集中日本語コース、午後1コマは日本語研修コース担当講師による特別授業を行った。その授業内容については、本稿で記録としてとどめることとする。

1. 受講生

受講生は、法学研究科 JDS の学生7名で、他に法学研究科の研究生1名を特別に認め、8名がこのコースを受講した。本年度も読解力を伸ばすことを目的にカリキュラムデザインを行った。

2. 時間割と日程

2008年10月14日(火)にオリエンテーションを行い、2009年1月30日(金)まで授業を行い、2月5日(金)は最終発表会とした。冬季休業期間などは全学向け日本語プログラムと同じである。時間は、毎日13時から14時半までの1コマである。

3. カリキュラム

このクラスの目標は、これまでと同じく、「専門課程での教育に入る前段階として、日本に関する基礎的な知識を、読解、発表、作文、総合的な演習を通して養成する」ことである。

学習内容

読解：VTRなども使用し、現代の日本社会について学ぶ

以下の話題の精読と、漢字310の学習

- ・日本の生活
- ・日本の自然
- ・日本の人口構成
- ・日本の歴史
- ・日本の経済
- ・日本人の価値観
- ・日本の政治
- ・ロボット
- ・日本国憲法

演習：テーマを設定し、日本事情について学ぶ

- ・日本の地理 日本人の持つ地理的な常識の紹介

- ・外国人労働者 日本社会への理解を深める
- ・裁判員制度 新制度の紹介

話す練習：トピックを自由に決め、一人ずつ話す練習
トピックに基づき、書いて、話す練習
趣味について、国の自然、歴史上の人物、
国の制度

総合演習：インタビュー活動と発表

今回は、地方検察庁、県警、法律事務所を訪問し、
1時間程度のインタビューを行った。このクラスの目
標は昨年と同じである。

5. まとめ

毎日1コマの授業ではあるが、最終の発表のためのインタビュー活動では、かなりの新しい語を学習している。同時に、それまでの読解、演習での授業を通して、漢字をはじめ多くの事柄を学ぶことのできる授業となっている。ただ、専門課程での学習にどの程度有効であるのかは、今回これまでこの授業を受講した学生へのアンケートの回答を見る限りでは、日本語自体の使用が少ないため、少なからず疑問がある。この特別読解クラスの時間数を価値あるものにするための方策が求められるところである。